

ビジョンの基本的な考え方

ビジョン策定の趣旨

地域住民の移動手段として重要な役割を担う地域公共交通は、人口減少や自家用車の普及などにより、近年その利用は減少傾向にあり、交通事業者の厳しい経営状況が続いています。さらには、コロナ禍の影響は脱しつつあるものの、運転者不足や燃料価格高騰といった課題に直面するなど、地域公共交通を取り巻く環境は一層厳しさを増しています。

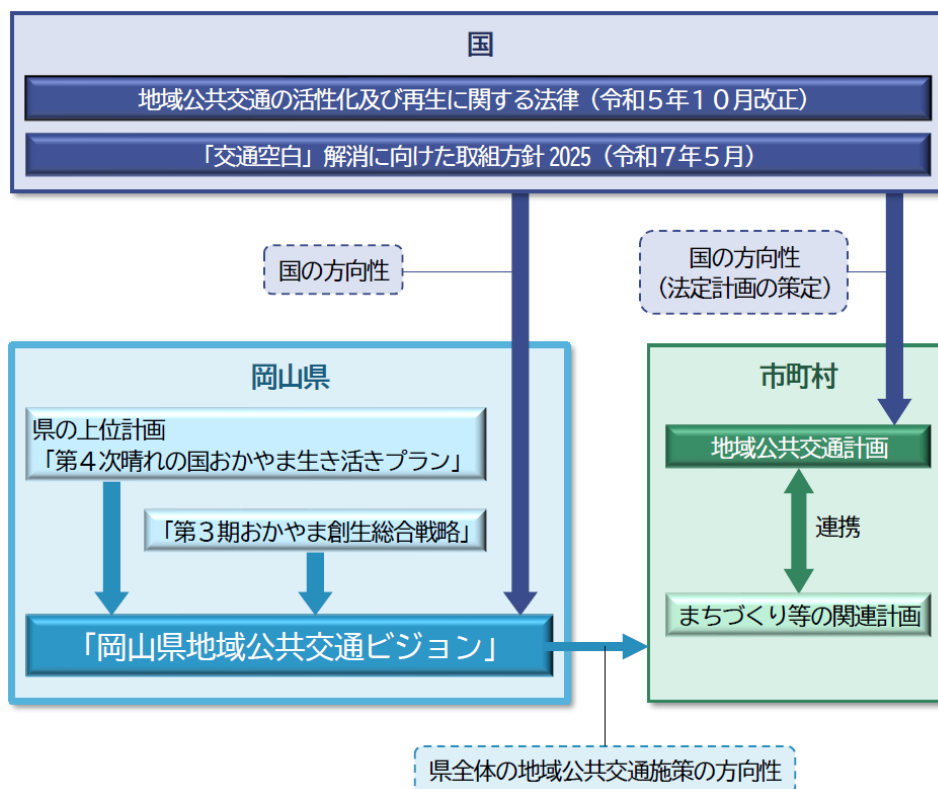
こうした状況を踏まえ、国、県、市町村、交通事業者、地域住民等が、公共交通体系の中で、それぞれの役割を果たしながら、県民の移動手段の確保などに、より一層連携して取り組むことができるよう、県全体の地域公共交通施策の方向性を示す「岡山県地域公共交通ビジョン」を策定します。

ビジョンの対象地域

岡山県全域を対象とします。

ビジョンの位置付け

国、県、市町村、交通事業者、地域住民等が、それぞれの役割を果たしながら、より一層連携を強化して取り組めるよう、県全体の地域公共交通施策の方向性を示す指針となるものです。



ビジョンの期間

令和8年度から概ね5年間を目途とします。（必要に応じて改訂を検討します。）

ビジョンの対象となる地域公共交通の範囲

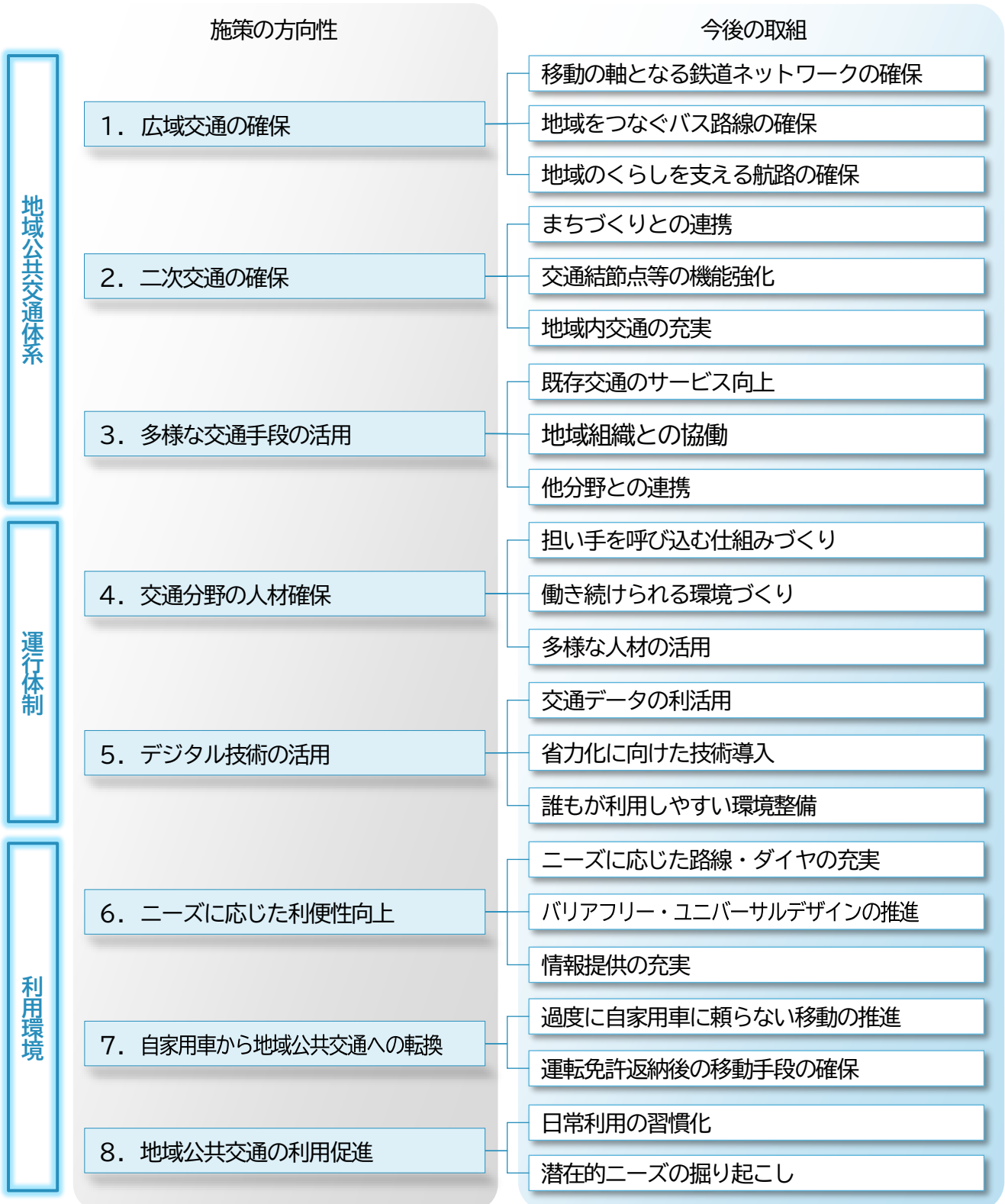
通勤、通学、買い物、通院、レジャー等、地域住民の日常生活における身近な移動手段としての役割を果たしている公共交通を対象とします。

ビジョンの基本方針

すべての県民が明るい笑顔で暮らす「生き生き岡山」の実現を目指して、国、市町村、交通事業者、地域住民等と連携しながら、多様な輸送資源を活用し、地域の実情に応じた、持続可能で利便性の高い地域公共交通体系の構築を進めるとともに、県民の公共交通利用を促進し、地域公共交通ネットワークの活性化を図ります。

ビジョンの体系

「岡山県地域公共交通ビジョン」で示す施策の方向性は次のとおりです。



目指すべき姿

1. 広域交通の確保

- 交通結節点などを拠点として、様々な交通モード間の連携が図られており、利用者にとってわかりやすく利用しやすい交通ネットワークが構築されている。
- 県内の主要都市間を結ぶ鉄道ネットワークが安定的に確保され、地域住民の通勤、通学、買い物、通院、レジャーをはじめ、県内外から訪れる観光客の広域的な移動手段として利用されるなど、日常生活や社会経済活動を支えるインフラとして機能している。
- 広域バス路線は、鉄道を補完し、中山間地域等と都市部を基幹的に結ぶなど、地域のニーズに応じた路線・ダイヤ等となっており、持続可能な運行が実現されている。
- 離島航路は、地域住民の生活航路としての役割に加え、観光航路として地域経済の活性化の役割も担いながら、持続可能な運航が実現されている。

2. 二次交通の確保

- まちづくりとの連携により、鉄道駅や乗継拠点といった交通結節点等において、二次交通につながるネットワークが構築されている。
- 多様な交通手段が効果的に連携することで、「交通空白」が解消され、地域住民が安心して日常生活を送ることができる移動環境が実現されている。

3. 多様な交通手段の活用

- 地域における多様な交通手段を活用しながら、地域住民等の様々なニーズに対応する交通サービスが提供されている。

4. 交通分野の人材確保

- 多様な人材が意欲をもって交通分野に就業し、運転者等の必要な人材が十分に確保され、安定的な交通ネットワークが実現されている。

5. デジタル技術の活用

- 新技術・デジタル技術が活用されることにより、運行の最適化及び業務の省力化が実現されている。
- 公共交通に関する情報に容易にアクセスし、快適なサービスを楽しむ環境が実現されている。

6. ニーズに応じた利便性向上

- 地域の実情や利用者のニーズを踏まえた交通サービスの最適化が実現されている。
- バリアフリー・ユニバーサルデザインの考え方などを取り入れ、誰もが安全で快適に利用できる移動環境が整備されている。

7. 自家用車から地域公共交通への転換

- 自家用車への過度な依存から脱却し、自家用車と公共交通が効果的に組み合わせられた効率的な移動が可能となっている。
- 運転免許を返納しても安心して移動できる交通手段が確保されている。

8. 地域公共交通の利用促進

- 公共交通に対する地域住民の理解が深まり、通勤、通学、買い物、通院、レジャーなどの日常的な移動手段として定着している。
- 公共交通が地域外からの来訪者にとっても利用しやすく魅力的なものとなっている。

地域公共交通の将来像

将来にわたって、通勤、通学、買い物、通院、レジャーなどの目的に応じた交通手段が利用できる環境を目指します。



今後の取組

国、県、市町村、交通事業者、地域住民等が、それぞれの役割を果たしながら、今後、より一層連携を強化して取り組む主な内容は次のとおりです。

1. 広域交通の確保【本編 p.24】

- ① 移動の軸となる鉄道ネットワークの確保
 - 鉄道と二次交通を組み合わせた移動手段の確保等による地域住民や観光客等の新たな利用者の掘り起こし
- ② 地域をつなぐバス路線の確保
 - 地域の実情に応じた広域路線やダイヤ等の検討
 - 広域バス路線への継続的な支援
- ③ 地域のくらしを支える航路の確保
 - 持続可能な運航体系構築の検討
 - 離島航路への継続的な支援



2. 二次交通の確保【本編 p.27】

- ① まちづくりとの連携
 - まちづくりと一体となった公共交通ネットワークの構築
- ② 交通結節点等の機能強化
 - 鉄道駅、乗継拠点等の幅広いニーズに対応した機能強化
- ③ 地域内交通の充実
 - 地域の実情に応じた最適な交通手段の検討
 - 「交通空白」解消の取組



3. 多様な交通手段の活用【本編 p.30】

- ① 既存交通のサービス向上
 - 地域組織との協働や他分野との連携による既存の交通サービスの最適化
- ② 地域組織との協働
 - 地域全体で交通を支える仕組みづくり
- ③ 他分野との連携
 - スクールバスの混乗など様々な交通手段との連携



4. 交通分野の人材確保【本編 p.32】

- ① 担い手を呼び込む仕組みづくり
 - 就職説明会や運転体験会の開催
 - 免許・資格取得に対する助成
- ② 働き続けられる環境づくり
 - 就業環境の改善
 - デジタル技術の活用などによる業務の省力化・効率化
- ③ 多様な人材の活用
 - パートタイム労働者、外国人、行政職員などの活用



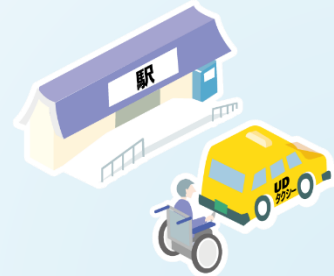
5. デジタル技術の活用【本編 p.36】

- ① 交通データの利活用
 - 運行情報の共通化やオープンデータ化の推進
 - モビリティ・データを活用した現状把握や分析
- ② 省力化に向けた技術導入
 - 交通事業者等の取組への財政支援
 - 自動運転技術の導入促進
- ③ 誰もが利用しやすい環境整備
 - キャッシュレス決済等の新たなサービスの利用促進や普及拡大



6. ニーズに応じた利便性向上【本編 p.40】

- ① ニーズに応じた路線・ダイヤの充実
 - 定期的・継続的な現状把握
 - 地域公共交通会議等への参画
- ② バリアフリー・ユニバーサルデザインの推進
 - バリアフリー化の推進
 - 誰もが安全・安心に移動できる環境の整備
- ③ 情報提供の充実
 - 利用ニーズに応じた運行情報提供の充実



7. 自家用車から地域公共交通への転換【本編 p.43】

- ① 過度に自家用車に頼らない移動の推進
 - 「スマート通勤おかやま」やパークアンドライドなどの取組の推進
- ② 運転免許返納後の移動手段の確保
 - 地域の実情に応じた交通サービスの導入
 - 安心して返納を選択できる情報提供や環境づくり



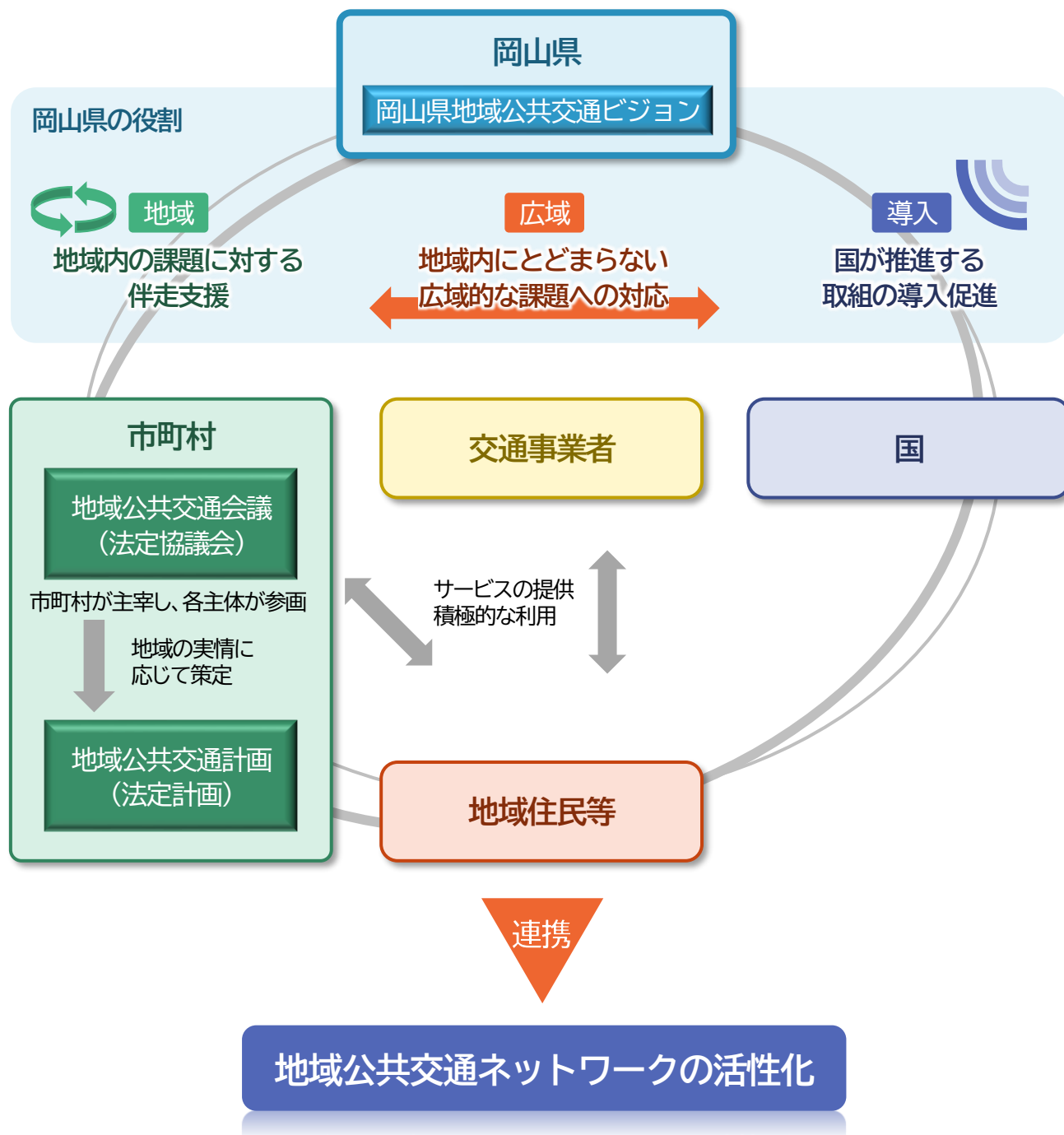
8. 地域公共交通の利用促進【本編 p.47】

- ① 日常利用の習慣化
 - 公共交通への無関与層に向けた利便性の周知や行動変容を促す取組の推進
- ② 潜在的ニーズの掘り起こし
 - わかりやすい情報発信
 - 公共交通利用につながる施策展開



県の役割及び各主体との連携

今後の取組にあたっては、国、県、市町村、交通事業者、地域住民等が、それぞれの役割を果たしながら、より一層連携を強化します。



岡山県地域公共交通ビジョン

概要版

令和8年3月発行

岡山県 県民生活部 交通政策課 〒700-8570 岡山県岡山市北区内山下 2-4-6

TEL (086) 226-7127 FAX (086) 232-5354 URL <https://www.pref.okayama.jp/>

